

新闘牛場 開始

～ぶつかり合う 地域課題と牛～



I 宇和島観光改革 ～はじめの一歩～

今、宇和島市は人口減少や少子高齢化により、活気が損なわれてきている部分が多々ある。だが、宇和島には「うわじま牛鬼まつり」や「闘牛」など数多くの祭りやイベントがあり、人がたくさん集まってくる。普段からその盛り上がりを出すことはできないかと思い、宇和島市全体を“継続的”に盛り上げるための一歩目として、観光資源を観光客から地域住民まで**全ての人に身近な存在**にしようと考えた。



盛り上がり復活計画

要素をインプット



関心度を育てる



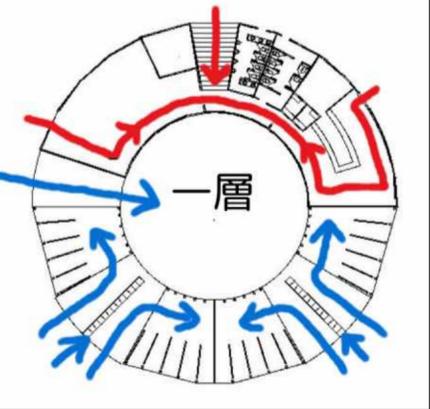
人の目を惹く



meet

meet

宇和島には↑写真のように数多くの祭りやイベントが存在する。これら伝統行事と地域の結びつきを強め、観光客だけでなく地域住民にも宇和島市の魅力を体感してもらう。伝統に触れる機会をつくることで、より多くの人により多くの魅力を見出し、発信してもらえらるだろう。そのサイクルを絶やさないよう、人の目を惹き、事を始めるきっかけを掴めるその建物を造り、後継者を育てていきたい。



「店内イメージ」
 ■ お客様動線
 ■ 牛動線

一階層

一層北側には**お客様動線**が。船の待合室や飲食店があり、スタジアム内やふれあい広場の様子を見ながら楽しんでほしい。
 一層南側には**牛動線**が。牛も一緒に宿泊できるスペースが設けられているので、一日中満足いくまで闘牛ライフを送ってもらえる。

二階層

二層北側には**観客席**が設けられている。**段々畑**をイメージしてつくられたこの席には様々な工夫をほどこした。
 観客席からスロープで登った先、南側の観客席はデッキのようにになっている。北側と違い、広々とした空間にすることで、**宇和島城**や**宇和海**が**一望**できる。景色を眺めながらコミュニケーションが取れ、小さい子も楽しめる場所となった。

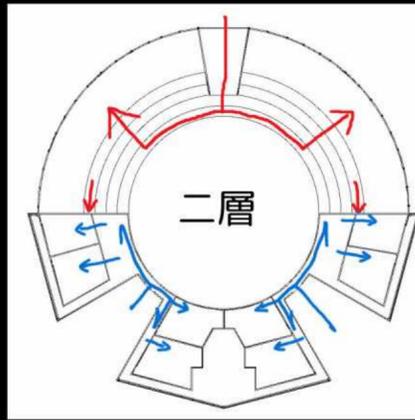
■ お客様動線
 ■ 牛主動線



「段々畑」



「南側観客席」



II 闘牛場「ウミウシ」案内板

～新闘牛場 開始～

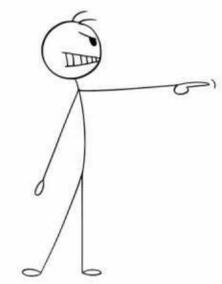
私が観光資源を人々と身近なものにする案を出すうえで目を付けた「闘牛」。昔から人気絶えず続いている祭り。しかし、**地元民の文化に触れる機会が増え、地元民側の関心が失われてきており、それにより担い手不足問題**が少しずつ悪化してきているからだ。この建物を通じて宇和島の文化を知ってもらい、そんな現状を改善していきたい。

～建設予定地～

場所は道の駅「きさいや広場」の隣地。ここには**宇和島の“要素”**がつまっている。山の上から城が覗き、海に囲まれたその場所には郷土料理や特産品が並んでいる。地元民にも愛され、離島を繋ぐフェリーや漁業をする漁師、ツアーを満喫し終わった観光客の帰港場でもある。**元よりたくさん**の人で賑わっている。

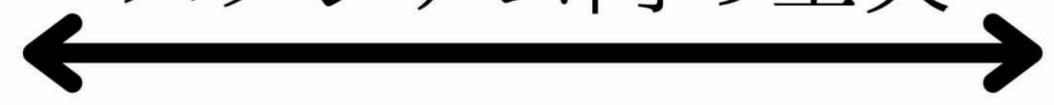


～ターゲット～



現在宇和島市には2,251,000人(令和元年からの年平均)と、多くの観光客が訪れている。**観光客だけでなく、地元民も遊びの一環で観光ツアーに巻き込みたい。**そうすれば、再度魅力を実感でき、観光客とともに**地元民もターゲット**となると考えた。

スタジアム内の工夫



～牛鬼の内部へ潜入～

スタジアム内を牛鬼の内部を連想させるような形にするため、建物の**骨組みをあえて露出**させた。地元の牛鬼まつりでは真夏日に重量およそ300kgの牛鬼を肩に乗せ、長い道のりを練り歩く。地元の人なら一度は入ったことがあるであろうその内部。様々な意味でアツいその空間を再現し、入ったことのない人でもアツさを体感してもらいたい。



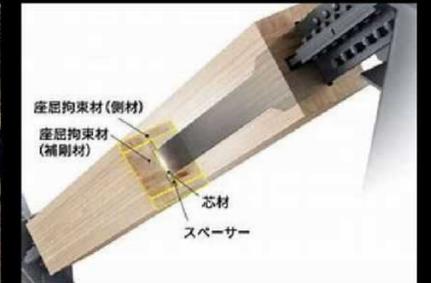
「牛鬼の骨組み」



「闘牛場内」

～柱の中に…～

観客席下のデッドスペースを利用するには厚い壁を使い、床や観客が乗っても耐えられる構造にしなければならない。ただ私は、スタジアム内を牛鬼の内部構造に寄せたかった。**木と鉄の良さを兼ね備え、シンプルで施工性が高い「木鋼ハイブリッド構造」**。これをふんだんに柱として組み込んでいるため、柱と床板のみで成り立たせることができる。

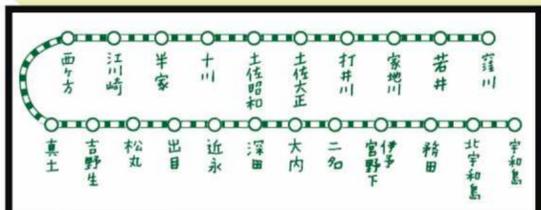


「木鋼ハイブリッド構造」

①電車で 宇和島駅



高知県の若井駅からここ宇和島駅間を走る、四国旅客鉄道の鉄道経路「予土線」。だが現在、利用客の減少により、予土線廃線の危機が迫っている。四国を代表する観光資源(他の地域と繋がるための経路)が失われてしまい、観光客数が減少してしまう。その問題を防ぐべく、右の乗り物の実装を提案する。



「予土線」

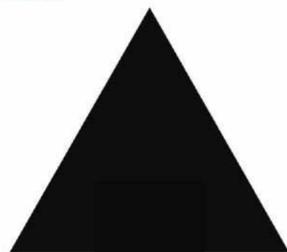


「予土線を走る電車」

～ちょっと寄り道～

宇和島駅から闘牛場まではDMVを引き続き利用してもらう。駅から出てすぐ見えてくる名所「ワシントンやし通り」を通過後、城の周りを一周し、集約点に向かう。直線ルートと比べると遠回りにはなってしまうが、約20分ほどのプチ観光ができ、一般客(主に学生の通学手段)も程よく短距離移動ができるので有効的。

ワシントンやし通り

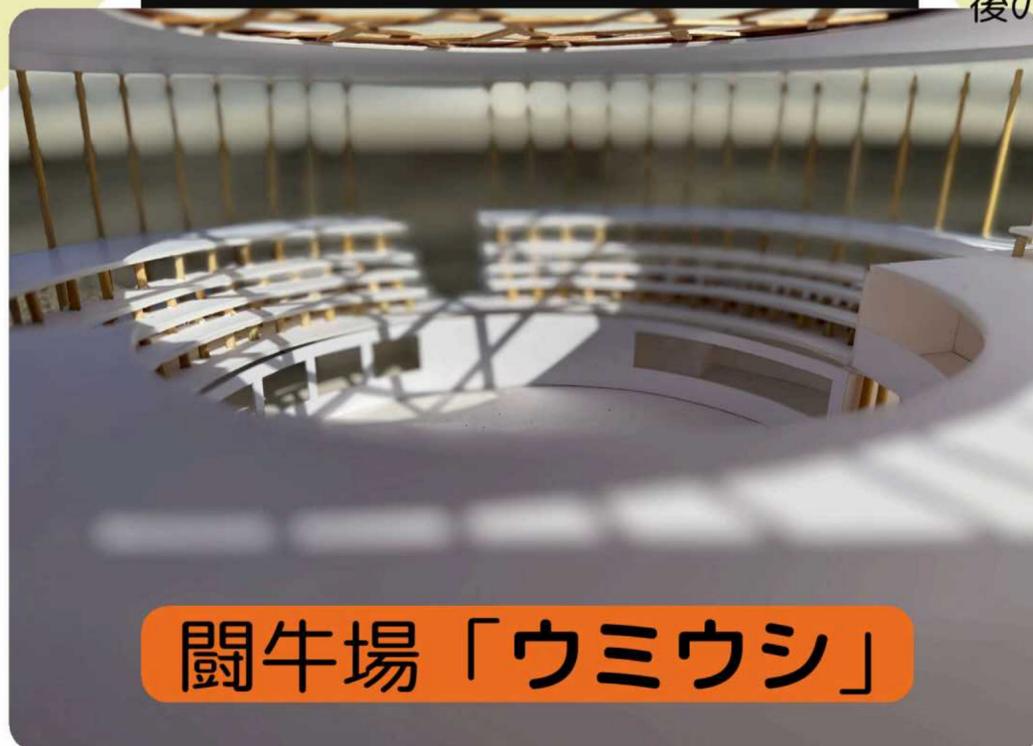


IV人の動き

道路・鉄道両用車 DMV



この車両は徳島県で日本初運行した。DMVならば、線路から道路へ乗り換えることなく移動ができ、普段のお出かけがもっと便利になる。
DMVを目的にその地を訪れる客も多く、地域の足であり、観光資源ともなる。



闘牛場「ウミウシ」

観光客

- ・イベントに参加
- ・伝統に触れる

地元民

- ・イベント開催
- ・イベント参加
- ・フリーマーケット開催

発信源の提供

関心度の育成

施設を盛り上げる

食材支援

牛主

- ・ウミウシで練習
- ・ふれあい牧場開催
- ・闘牛大会開催

農家・漁業者

- ・食材提供
- 牛のえさ
- 飲食店

ウミウシ

②クルーズ船で

坂下津クルーズ船入港所。ここには月に3回ほど、海外客がクルーズ船に乗ってやってくる。立地的に、あまり目立つ場所にはなく、そこに海外客がやってくる存在を知らない人も多いだろう。

そこで私は、ここウミウシの横、現在フェリー乗り場がある場所に停泊してもらおうと考えた。ただ、一つの問題点として、船底が地面についてしまう。船の船底が余裕のある海深にし、停泊できるスペースを設ければ、その分人の目にも付き、訪れる人も増える。道の駅「きさいや広場」側にツアーバスの駐車場もあるため、その後の移動もスムーズに行えるだろう。



降りてすぐに闘牛場がおもてなしするかのように建っている。船旅終わりの一時休憩にも利用できる。



地元民のおもてなしの様子